

## 京都府感染症情報センターからの最新情報

(2024 年第 48 週 : 令和 6 年 11 月 25 日～令和 6 年 12 月 1 日) No. 648

京都小児重症患者診療情報システム管理部 長村敏生

**今週のコメント :** 2024 年第 48 週の報告です。

**インフルエンザ**の定点当りの報告数が**急増**し、前週の 1.99 から 3.99 になりました。**手足口病**の京都府の報告数は 1.39 に減少し、警報継続基準値の 2.00 より下回りました。山城北では**咽頭結膜熱**の警報レベルが継続中、京都市右京区では **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**が定点当りの報告数が 9.60 に増え、今週新たな警報レベルとなりました。そのほか、眼科定点は**流行性角結膜炎**が 6 件、基幹定点は**マイコプラズマ肺炎**が 16 件と**感染性胃腸炎（ロタウイルス）**が 1 件の報告がありました。

全数報告対象の感染症は、2 類の**結核**が 7 件、3 類の**腸管出血性大腸菌感染症**が 1 件、4 類の**レジオネラ症**が 2 件、5 類の**アメーバ赤痢・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・侵襲性インフルエンザ菌感染症と侵襲性肺炎球菌感染症・百日咳**がそれぞれ 1 件、**梅毒** 4 件の報告がありました。

**結核**については毎週新たな感染者の報告がなされています。日本は、長年、結核の中蔓延国<sup>1)</sup>とされてきましたが 2021 年に初めて低蔓延国と位置付けられ、その後の 2022 年と 2023 年は、その罹患率はさらに低下傾向です。一方、京都府に目を向けると、その結核罹患率（人口 10 万人対）はわが国でも高水準であり、2023 年は過去最低だった 2022 年の 9.4 人から少し増え、全国でもワースト 5 位の 9.9 人になっています<sup>2)</sup>。今年もこれまでの週当たりの平均報告数は 7.6 人であり、昨年の 7.2 人を上回るペースで報告が続いています。

**結核**は教科書的には抗結核薬で適切に治療をすれば治癒する疾患とされていますが、実際は、世界的に多くの罹患者がまだまだ存在し、くわえて多剤耐性結核菌の存在が公衆衛生上の大きなリスクとなっているのが現実です。WHO（世界保健機関）は 2024 年 10 月 29 日に「結核が感染症による死因のトップに再浮上した」と公表し、警鐘を鳴らしているところです<sup>3)</sup>。

**結核**は潜伏期間が長く、感染後数十年経過したのちに初めて発症する場合があります。そして加齢や疲労、病気等で免疫力が低下すると発症するリスクが高くなります。65 歳以上の方や持病のある方は早期発見のため、年に 1 回定期健診（胸部エックス線検査）を受けま

しょう。結核の病態・検診・公費補助等の詳細についてはこちらをご覧ください。

<https://www.pref.kyoto.jp/kentai/kekaku.html>

その他：

1. WHO は、結核罹患率が人口 10 万人当たり 10 未満の国を低まん延国、10 以上 100 未満の国を中まん延国、そして 100 以上の国を高まん延国と定義しています。

2. 厚生労働省 2023 年 結核登録者情報調査年報集計結果について

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001295037.pdf>

3. 日本 WHO 協会：[https://japan-who.or.jp/factsheets/factsheets\\_type/tuberculosis/](https://japan-who.or.jp/factsheets/factsheets_type/tuberculosis/)

京都府感染症情報センターホームページのアドレス：<http://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

注意：上記の下線部分の内容をご覧になりたい方は、パソコンの「Ctrl ボタン」を押しながら[青文字下線部分](#)をクリックしていただきますと、閲覧することができます。

### 最新の府内の発生状況（2024年第48週）

#### 全数把握疾患

分類	報告
1類感染症	報告がありません
2類感染症	結核が7件報告されました
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症が1件報告されました
4類感染症	レジオネラ症が2件報告されました
5類感染症	アメーバ赤痢・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・侵袭性インフルエンザ菌感染症・侵袭性肺炎球菌感染症と百日咳が各1件、梅毒が4件報告されました

[全数報告一覧へ](#)

基幹定点 マイコプラズマ肺炎が16件、感染性胃腸炎（ロタウイルス）が1件報告されました  
眼科定点 流行性角結膜炎が6件報告されました

#### 定点把握疾患

疾患名	定点当たり報告数	前週比	注意報・警報
インフルエンザ	3.99	↑	
COVID-19	1.89	↑	
R S ウイルス感染症	0.22	↑	
咽頭結膜熱	0.51	↑	
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.16	↑	
感染性胃腸炎	3.14	↑	
水痘	0.17	↑	
手足口病	1.39	↓	
伝染性紅斑	0.33	↑	
突発性発しん	0.33	↑	
ヘルパンギーナ	0.07	↑	
流行性耳下腺炎	0.04	↑	
急性出血性結膜炎	0	→	
流行性角結膜炎	0.33	↑	

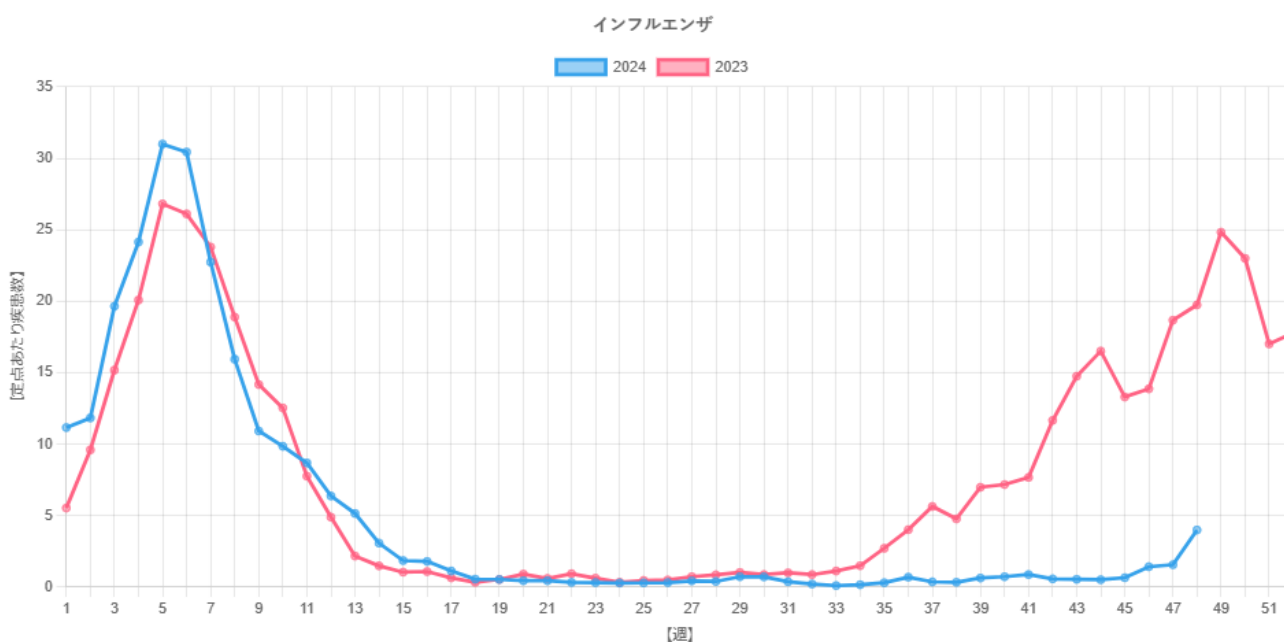
#### COVID-19

DEGREE (CASES/100000)

2024 2023

[週]

インフルエンザが増加傾向にあります(昨年と比べると、かなり少ないですが)。



### 基幹定点からのマイコプラズマ肺炎の報告件数の推移

2024年第41週:令和6年10月7日～令和6年10月13日: **30件**

2024年第42週:令和6年10月14日～令和6年10月20日: **28件**

2024年第43週:令和6年10月21日～令和6年10月27日: **29件**

2024年第44週:令和6年10月28日～令和6年11月3日: **21件**

2024年第45週:令和6年11月4日～令和6年11月10日: **30件**

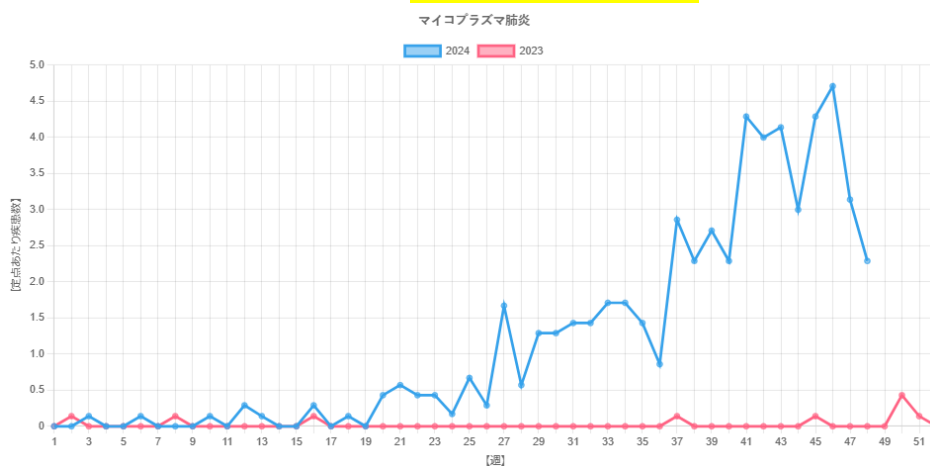
2024年第46週:令和6年11月11日～令和6年11月17日: **33件**

2024年第47週:令和6年11月18日～令和6年11月24日: **22件**

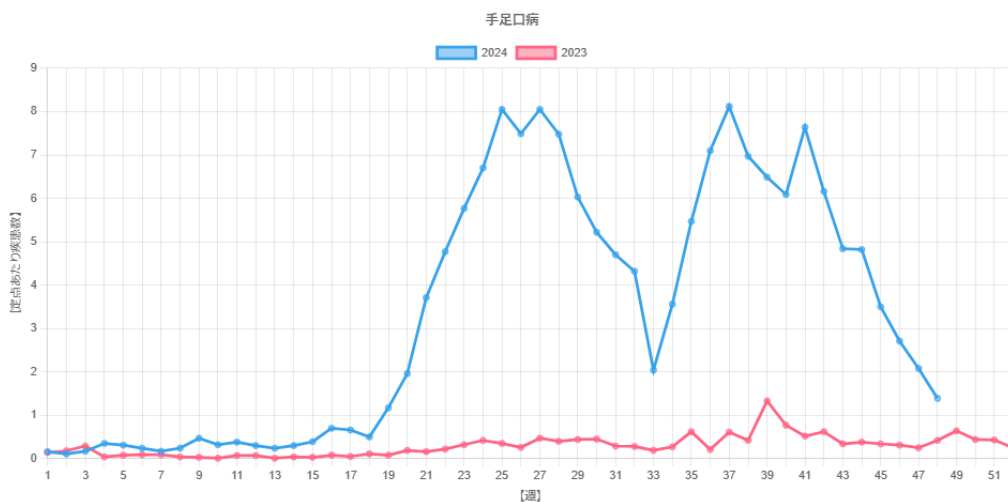
2024年第48週:令和6年11月25日～令和6年12月1日: **16件**

⇒ 34～36週にかけて、いったん減少傾向にあった**マイコプラズマ肺炎**ですが、46週をピークとしてようやく

減少傾向です。

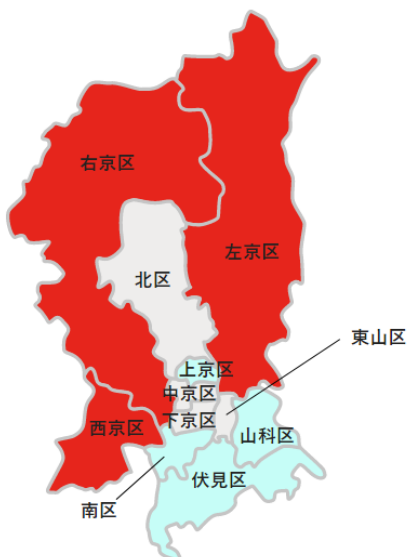


手足口病の定点把握推移グラフ：手足口病の報告数は再度減少傾向です。



今週の手足口病の地図上分布(定点把握)

京都市域



	罹患数	定点当たり
北	-	-
上京	5	1.67
左京	10	2.5
中京	-	-
東山	-	-
山科	3	0.6
下京	-	-
南	5	1.25
右京	10	2
伏見	5	0.83
西京	15	3

京都府全域



	罹患数	定点当たり
乙訓	2	0.5
山城北	9	0.9
山城南	2	0.5
南丹	11	2.2
中丹西	9	3
中丹東	16	4
丹後	4	1

疾患名

京都府全域



- 発生なし
- 発生
- 注意報
- 警報

	罹患数	定点当たり
乙訓	3	0.75
山城北	28	2.8
山城南	3	0.75
南丹	-	-
中丹西	3	1
中丹東	-	-
丹後	-	-

疾患名

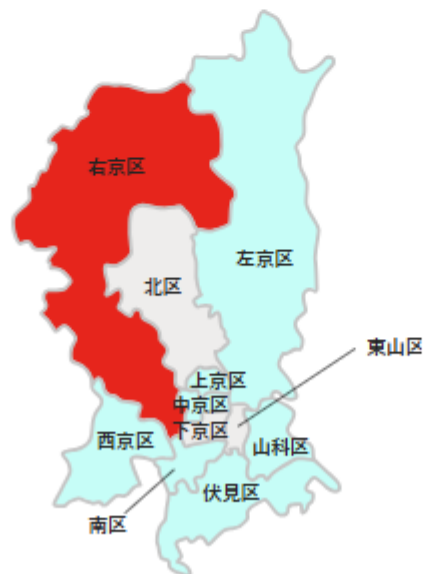
京都府全域



- 発生なし
- 発生
- 注意報
- 警報

	罹患数	定点当たり
乙訓	9	2.25
山城北	32	3.2
山城南	-	-
南丹	10	2
中丹西	3	1
中丹東	12	3
丹後	3	0.75

京都市域



- 発生なし
- 発生
- 注意報
- 警報

	罹患数	定点当たり
北	-	-
上京	1	0.33
左京	10	2.5
中京	1	0.33
東山	-	-
山科	5	1
下京	-	-
南	3	0.75
右京	48	9.6
伏見	15	2.5
西京	12	2.4